

緩和ケア学

Palliative Care

単位数：5単位

○齊藤 洋司 教授：麻酔科学
玉置 幸久 准教授：放射線治療科
稲垣 正俊 教授：精神医学
橋本 龍也 講師：緩和ケアセンター

1. 科目の教育方針

生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族を正しく理解し、早期より痛みや、身体的、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を包括的に評価し、アプローチするための理論と方法について学習する。

がんがもたらす身体症状の病態・発現メカニズムを理解し、薬物的・非薬物的アプローチを適切に活用しながら、症状を緩和するケアを提供する能力を高める。

精神的苦悩のアセスメントと介入方法、コミュニケーション方法を学び、精神的苦悩を緩和するための技法を学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) がん医療における緩和ケアの意義、役割を理解する。
- 2) 全人的痛みの評価、緩和を学ぶ。
- 3) がんの痛みの特徴と治療を学ぶ。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 緩和ケアの意義を説明できる。
- 2) 早期からの緩和ケアを行うことができる。
- 3) 全人的な痛みを4側面から評価できる。
- 4) がんの痛みの機序を説明できる。
- 5) 非がん患者の緩和ケアの適応について説明できる。
- 6) 精神的痛みの特徴と緩和について説明できる。
- 7) スピリチュアルな痛みの特徴と緩和について説明できる。
- 8) 緩和的放射線治療の特徴について説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率（2/3 以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

1) 日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員会編集：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版、金原出版、2014.

2) Geoffrey Hanks, Nathan I. Cherny : Oxford Textbook of Palliative Medicine FOURTH EDITION 2011.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	がんの痛みの特徴と機序	齊藤洋司
2	神経障害性痛の病態生理	齊藤洋司
3	内臓痛の特徴と機序	齊藤洋司
4	オピオイドの作用機序	橋本龍也
5	呼吸困難とオピオイド	齊藤洋司
6	全人的痛みと緩和ケア	齊藤洋司
7	主な身体的苦痛と緩和ケア	齊藤洋司
8	がん性痛の薬物療法	橋本龍也
9	がん性痛の神経ブロック療法	橋本龍也
10	緩和ケアと多職種協働	橋本龍也
11	地域連携と療養の場	齊藤洋司
12	がん患者の不安・抑うつ	稲垣正俊
13	がん医療におけるコミュニケーション	稲垣正俊
14	緩和ケアにおいて放射線治療の果たす役割	玉置幸久
15	緩和ケアにおける放射線治療の実際	玉置幸久